

昭和三十八年十一月二十六日招集
第五回市議會臨時會々議錄

館山市議会第五回臨時会々議録

昭和三十一年十一月招集

十一月二十六日(火曜日)

一、現在議員三十六名でその氏名次の通り

- | | | | |
|-----|-------|-----|-------|
| 一番 | 吉田勇治郎 | 二番 | 鈴木正一郎 |
| 三番 | 小柴孝 | 四番 | 館石伝蔵 |
| 五番 | 田中祿郎 | 六番 | 秋山大三郎 |
| 七番 | 田村源治郎 | 八番 | 望月照正 |
| 九番 | 安西益男 | 一〇番 | 辻田実 |
| 一一番 | 石井正 | 一二番 | 黒川佐太郎 |
| 一三番 | 菊井敏博 | 一四番 | 志村信作 |
| 一五番 | 小沢恵太郎 | 一六番 | 関武夫 |
| 一七番 | 飯田義男 | 一八番 | 西村真次 |
| 一九番 | 藤田好治 | 二〇番 | 保科忠夫 |

二一	番	江田 徳太郎	二二	番	君塚 喜三
二三	番	中村 省吾	二四	番	島野 茂樹郎
二五	番	荻生 田七郎	二六	番	鈴木 孝
二七	番	嶋田 繁	二八	番	山田 教宇
二九	番	鈴木 市蔵	三〇	番	安藤 竜吉
三一	番	安次 徳順	三二	番	三沢 節
三三	番	高橋 文治	三四	番	山本 昇
三五	番	松本 藤太郎	三六	番	山口 康

一 議事日程(一)

第一 館山市五房南中学校校舎改築についての請願書

第二 館山市五房四中中学校体育館新築に関する請願書

第三 報告第十号 非常勤の特別取組取組員に係る報酬及び費用弁償の特例に関する条例の制定に

関する専決処分報告

報告第十一号

昭和三十一年度熊山市支入支出予算の追加に關する専決処分報告

第四報告第十二号

熊本市厚生年金保険被保険者休養施設設置条例の一部を改正する条例の制定に關する専決処分報告

議案第一〇八号

熊本市高等専修学校工業課程の備品購入契約の締結について

第五

議案第一〇九号

熊本市高等専修学校工業課程の備品購入契約の締結について

第六 議案第一一〇号

熊本市国民健康保険条例の一部を改正する条例の制定について

第七 議案第一一一号

熊本市立熊本市高等専修学校併設工業科の内、電気科校舍増築並に其他工事請負契約の締結について

第八議案第一二二号

館山市立西岬中学校技術科室増築其他工事請負契約の締結について。

第九議案第一二三号

館山市立西小學校理科室増築其の他工事請負契約の締結について。

第十議案第一二四号

千葉県旧市町村取員因給組合資産管理組合規約の一部改正について。

第十一議案第一二五号

館山市公平委員会委員選任について。

第十二議案第一二六号

館山市教育委員会委員の任命について。

一、法第一百二十五条による出席説明員

市長 本間 讓

助役 小出 武男

秘書課長 小倉 澄男

観光課長 小澤 正治

保健課長 池田 亮山

建設課長

新井重助

逓信書記長

大嶋重義

教育長

工藤和平

庶務課長

干場伊右衛門

総務課長

山口 実

一本議會、事務局長、事務局長補佐、書記及び取員

事務局長

高梨清一

事務局長補佐

太田博雄

書記

矢藤恭一

取員

綿織睦子

一出席議員

三四名

一欠席議員

二名

五番 田中祿郎

九番 安西益男

午前 十時十五分 開議

・議長(黒川在太郎君) 本日の出席議員数 三十二名、このより
第五回市議会臨時会を開きます。

本臨時会の議案説明のため、本間市長、小出助役、
山口課長、小倉課長、池田課長、小沢課長、大嶋書
記長、新井課長、工藤教育長、千場課長以上出席
を求め、コーラスで、市報告いたします。

会期の決定を行ないます。本臨時会の会期につき、
議会運営協議会が意見は、本日一日ということであり
ます。

おわかりいたします。会期を一日と定め、ことに片々
議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

午前 十時十五分 開議

議長(黒川左太郎君) 本日の出席議員数 三十二名、このより
第五回市議会臨時会を開きます。

本臨時会の会議録の署名議員を決定いたします。

六番議員 秋山五郎君 三番議員 三沢節君
以上両君を指名いたします。

この中に異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(黒川左太郎君) 異議なしと認めます。よって両君に
決定いたします。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

・議長(黒川佐太郎君)や其議なしと認めます。よって会期は一日と決定いたしました。

本日の議事は、お手元に配付の日程表により行ないます。まず、市長の本臨時会の招集案件の説明を求めます。

(市長 本間譲君登壇)

・市長(本間譲君) 本日は皆々の方には、衆議院議員選挙、また最高裁判所の裁判官の国民審査と大へんお煩わしいところ。暇もひく甚だ中迷惑とは存じまうたが、当面緊急を要する案件が生じまうたので、ここに臨時市議会を招集いたし、中審議をわざわざすることになりました。そこで本日、ここに上程いたします。付議事件でございますが、このうち専決処分によるもの、報告三件でございます。これは、今回執執の衆議院議員の総選挙に关する特別法の規定に伴い、非常勤、特別取にかける報酬及び費

用弁償の特例に關する条例の制定と同優待による追加予算の計上でございます。その他一件は、厚生省次官通達によります。全国国民宿舍の料金改定に伴います本市休養施設設置条例の一部を改正する条例の制定に關する専決処分でございます。この件は、施行期日の關係上、皆、急を要するものでありまして、専決処分をいたしまして、報告いたし承認を求めようとすまものであります。

議案につきましては、全部で九件でございますが、教育関係では、饒山高校工業課程の併設に伴います校舎の増築、備品購入にわたるもの三件、西岬中学校技術科教室増築その他工事請負契約の締結について各一件ずつあります。

その他条例関係では、国民健康保険条例の一部を改正

する条例の制定でございますが、これは自治法の一部改正に伴いまして、保険料の減額を特に定めようとするものであります。

また千葉縣市町村取組恩給組合資産管理組合規約の一部改正でございますが、本市が組合に加入しておりますので、規約中市町村の廃置、分合にすぎず、組合の名称を改正しようというものであります。地方自治法二百三十条の規定により、加入市町村の決議を求めようとするものであります。

その他、目下、役員中うち平委員長二名の選任、教育委員一名の同意、詳細につきましては、関係課長をして詳細説明をさせていただきます。慎重な審議をいたします。ようも願います。

議長(黒川在太郎君) 日程第一 館山市立房南中学校校舎

改築について、請願書を上程いたします。

(書記朗読)

・議長(黒川左太郎君) 紹介議員の説明を求めます。

(二七番議員 鳩田繁君登壇)

・二七番(鳩田繁君) 房南中學校の改築の件につきまして、請願書が出て参りましたので、紹介議員を代表いたしまして、一言お願い申し上げたいと思っております。

大体にございまして、請願書に詳細書いておりますので、あえてだいたを要する必要はないとは存じますが、一、二、重要な点を申し述べて見たいと思ひます。

第一点はそこにもあります通り、突貫工事になった旧兵舎であります。その後雨が漏りまして、どうしても雨の月には、教育が困難でありますので、従って、単に屋根をふさぐえんたというだけでは、建ちかねで、そうまゝ一向に補

強というようなことも施しておらぬのでございます。

こういうようなわけで大部の柱が腐つております。廊下その他の床が非常に危険である。特に運動をやる室でありは、手鉈が何回もけがまゝな実例もありませんが、そういうような非常に不適確な建物であります。

こゝが一つと、それから次には、あそこがリを止めようとしての上に立っておりますがために非常に地盤が弱い。

西の一角であり、尖鋭基礎が沈下いたしました。土台と基礎の間に二、三ですが離れていったという危険度があります。こゝを復旧するには、非常に困難をきたさないのであります。土台がそう通り一方天井を見ますと、二階が高いんですが、天井の梁と桁との間が鉄をもつてネジで止められておった。戦時中、鉄が加工になったために、そうついであった鉄を全部はがして、こゝをこゝのために桁と

梁との間がすきまゝで、非常に隙たつてきております。

従つて講堂に使つており、すところへ生徒と文苑が入り
ますと、危険でござらぬ、先般も卒業式の際に入つた
んですが、あとの人たちは下に入つた。一時中止しよ
うかというふうなことでござつたのであります。そうい
うふうによつて下とがそういう状況でございます。あの校
舎がいかに危ないかということになる。

もう一つ申し上げておきたいことは、あの校舎は、平屋ならとに
かくといたしまして、高い二階であります。そつと今
見ますところ下がせば、さうして上にいくに従つて
開いてゐる。こういう危険な校舎は、まづないだろう
と思ひます。

先般、文教委員で四国方面へ本市よりおむろつた
市立ニ、三カ所よく見せてもらつた。いづれも市が鉄筋

コンクリートの一つや二つは皆持っております。こゝからは鉄筋でいく。こういうことを言っておる。ある市では講堂を建てるのに地言わう一文も出させない。教育まうぐらにいておる。こういう市も二、三聞いております。非常にうらやましく思いました。

本市の周辺にももう二、三鉄筋コンクリートの校舎ができております。本市が危険であり、不適確な校舎を持っておるということは、非常にかなけない。こういうふうに私は感ずるものでございます。そういうふうなわけで、私は非常に危険でいずくにせよ、不適確校舎極まるということだけは申し上げたい。こう存じます。

この校舎につきまうては、過去二、三年の三月の議会におきまうて、三べんも房南中学校の危険性をこゝ最場めらとなえております。また先般P・T・Aで非常に心配

いたしまし、剣道の店間。そこには地元民が三十天石の木材を寄付し、また一方、製材・大工の手間、そういうものを申しまして、四五十万かかったんです。それを地元のP・T・Aが本気になってやってくれたのであります。これはいざいざにせよ、なるべく近い将来にあの校舎を建ててもらわなければならぬ。そこには、市、金をなるべく、出させない。こういうふうな我々でやるだけのことではあつておこう。こういう非常に健げな気持ちで言っておるということ。ここで皆さんに申し上げたいと思います。以上のようなわけでございまして、一日にば一日危険なことが加わるということにもなつてきますので、どうぞ皆さんもあくまで下さいまして、この請願書を探検していただき、そうして最善の方途を取つていただきたいと存じますので、ぜひ協力下さることを一重にお願い申し上げます。

げまゝで説明にかえさうしていただきます。

。三四番（山本昇君）市南中学校の問題と次にあります四中
の問題、関連いまして、まだ上程しておりませんですが、今
請願書を見ますと、まことにごもつともであり、当然早く
しなければならぬのではないか。かように考えておるわけござ
います。ただ一つ、私執行部にお聞きしたいことは、こ
うした請願書が来て、議会が採択して、そうして執行
部の方に回すだけでは、議会の權威上、私どもは、おも
うくない。こう考えております。少くとも、議会が採
択する以上は、必ず、執行あらぬのはならぬ。かように
私ども考えております。この問題につきまゝして
当然、議会にこうした請願書が来ると同時に、市長
さんのもとに教育委員会の方にも出ておると思ひます
が、この点につきまゝして、果して市長さん並びに教育

委員会でございます意思があるかどうか、これをこの際
お示しただけならば結構ではないか。採択する
前にこれを聞かしていただいた上で私ども考えてみた
い。やはり考えておりますが、お願いいたします。

・教育長（工藤和平君）ただ今うや實向に對し、まして教
育委員会創り考え方をや説明申し上げます。
房南中学校につきましては、この請願書にある通り
でございます。私ども年来、実は考えておいたわけで
ございます。

この中にありますように危険度の高い一部の建物
もございします。言葉の上に現わすに通り、
まさに不適確校舎でもございします。この点につきま
して、この予算化という問題に私ども突き当たりま
して、いろいろ研究したうでございしますが、一つの建物に

一部だけ危険校舎の指定を、他は受けないということ
にっきまりて、取り扱い上、非常に困りますので、県当
局に再三交渉をいたのであります。やはり骨組が
しつかりておる。これだけ、がっちりしているものを危険
校舎に指定するうは困難である。一定の見方で定
めるものでございますので、不可能である。一か一、県道
に面した側、現在、二階は講堂に使っております方は、
この建物の部分は、危険校舎の指定はできません。
こういうことでございますので、いろいろ考えまいたところ、
最近にかりまいて、いわゆる不適確校舎の解消という
問題が起さておるのでございます。これは、左の知事を
会長とする千葉県公立学校整備期成会、この中に
は、市町村長、或いは、議会、或いは、地方の教育長、教育
委員、こういうメンバーで構成されておるのであります。

こゝらう機関が熱心に不適確校舎の解消の点を今
 猛運動を展開中でございます。文部省に大蔵省
 にこゝろ予算化をはかつておるわけでございますが、も
 ちろん見通しはわかりませんけれども、こゝが実現した
 ところつきには、それによらんで予算化に持っていきたい。
 こういう考えを持っております。

なお、市内の建物につきまゝでは、いわゆる不適確校舎
 ということは、房南中とはじめといふしまゝで、二中・一中・
 西河中、こゝらが、あるいは、こゝ点まゝというふうな年次
 計画へもつていくや、その他危険校舎の取り扱い、繰り
 越し事業、こゝらも勘案いたしまして、目下、観念立案
 中でございます。

・市長（本間謙君）私も房南中は、運動会るときにいつて見
 まゝだが、鴻田職員さんや、おまゝのように非常にひど

いところがあるわけでございます。

私は、そういう学校を見るにつけて一つ銀行から借金してやつたらどうか。こう考えておったのです。が、自治体というのが、そういうわけにはいかない。助役からいろいろ言われまして、それ位に考えておりました。現在教育委員会の方で案を立てておりますが、なかなか資金が乏しいわけでございまして、うびうびになって申し分けないと思います。

・三四番(山本昇君) 一応教育委員会並びに市長さんの方の考えを聞きまして、やってみようという気持ちで、というふうに解釈して、この請願書を採択に賛成いたします。

・三〇番(安藤竜吉君) 今、紹介議員の説明でわかりました。が、いま一つ、もっと重大な危険校舍の意味がちゃんと扱

けておるようと思つたので、私はかつて消防署におりまして、当時、毎年あそこへ生徒に防火訓練を実施して参つたものでございます。なぜあそこに重点を置いたかということになりますと、分遣所は遠い。一々も本署から遠い。校舎そのものは、全部木造。腐りかけた木造で延焼速度の早い。一々も内部構造については、防火施設が金くはない。もっとも危険な校舎であるということと痛切に感じまして、特に市内におきます小中学校の生徒に消防訓練をしいる。當時は行き過ぎであつたと思つておつたのでございますが、あの校舎を守るためにはどうしても、若干の到着するまでは、自立消防を確立しなければならぬ。大災があつた場合、なかな消防団の応援を求めまうまでは、完全に火に包まれて、一そう状態であつたので、生徒消防を組織いたしました。

消防訓練をさうなということでございますので、火災
の面から見ましても、まことに危険であるということをお
考え願いまうて、できるだけ安全な校舎にして改築
さうていただきたい。かように希望いたしまうて採択に賛
成するものでございます。

一、番(辻田実君)事務局の方に質問いたしたいのでご
ざいますけれども、房南中学の街頭につきまうては、
議会の中에서도いろいろ危険校舎だということが指摘
されておりますが、今だに房南中学の新築に対する
ところ、そういったものに対するところ、請願決議、そ
ういうものは、されておるのかどうかということについてお伺い
したいわけですが、というのは、その点につきまうて、二番目
の議題に関連するわけですから、この議題に
ついても、すでに請願として決議されておるのか、再

度請願書として提案されているということが書いてあります。房南中学の問題については、そういう面がわつてあつたのか、ないのか、その関連について今後の請願書の採択についても十分な態度で内容を伺つておかなければ、是はとも山本義賢が申されておりますが、単なる請願決議ということでもって内容がないものになつてしまつては、議会が決議という面から面白くない面が出てきますので、そこを伺ひたいわけですね。

・議長（黒川佐太郎君）暫時休憩いたします。

午前 十時四十二分 休憩

午前 十時四十八分 再開

・議長（黒川佐太郎君）休憩前に引き続き会議を開きます。

一々番議員の質問に対する答弁は教育委員会の方からいたさせます。

。教育長（工藤和平君）只今の質問に對してのお答えをいたします。

房南中学の問題につきましては、以前の議会で助田前議員から通告質問の中におぼろ月教室ということできびしい批判をいただきました。それ以外に請願というものはございません。

四中につきましては、すでに三十六年度十二月十四日に体育館の改築ということで請願が出ております。体育館というのと講堂というのが同じだと解釈いたしますので、二度目の請願でございします。

。一々番（辻田実君）どうも申し分けございませんでした。房南中学の校舎の改築につきましては、前回の議

会におきまして、私が通告質問に際し、房南中学の危険校舎があるということでごらう問題に當つておるということが答弁をいたしましたので、当然請願なり陳情という中で処理されておると思ひました。が、今ここで質問に現れたように今ここで決議するものも得きに失すると思ひますので、早急に決議して実現に努めるでいたゞくように思ひまして、原案に賛成いたします。

○一八番（西村真次君）この校舎が非常に老朽化しておるということも市当局におきまして、また教育委員会におきましても十分お認めになつておられるということは、まことに結構なことだと思ひます。

大体、校舎が建築してから、何年位なら、いわゆる老朽化していく。従つて当然改築の時期に入っていくということは、建築、改築のときから、既にわかつておること

だろうと思つてあります。いりんや、初めから、校舎で打
かつたものを、途中から使つてゐるということで、当然本年度
ふりかへなければ、改築が必要であるということは、委員会
でもわかつてゐると思ひますが、これに對して、さらに精願
も前に出てあります。何か例えは、新築の準備金
を積み立てるとか、そういうふうな、何らかの改築のため
に努力というものを、やめてゐるかどうか、お伺ひたいの
であります。

。教育長（工藤和平君）老朽校舎というお話でございます
が、正しい言葉では、老朽校舎とは、申しませんで危険校
舎と申してあります。

老朽ということと、果の建築課で聞きましたところ、三
十年を過ぎたるものは、老朽に入るであらうが、必ずしも
も危険ではない。危険度は、柱や腐り、工合、傾斜の工合

こちらを測定して決定するわけで必ずしも年にはとらわれないという事とであります。

そこでこれを解決するために何らか考えておるかというや質問のようになつたのでございますが、我々は危険校舎の解消については、年来考慮を置いてゐるわけでございまして、一挙に解決できませんので、年次計画をもつて逐次解消していききたい。その技術的な方策は、鉄筋化以外には、ないと思ひますので、これも、多額の金を要しますので、年次計画で解決していききたいということでございます。

・一八番(西村真次君)年次計画で解決していくというお言葉でございますが、それは、これからという意味です。既にやつていなくては、いかぬはずだと私は思ううであります。これまでそういう努力はしてゐないのです。

これからやっていくというわけですね。

・教育長（工藤和平君）今まで全然やらないわけではございませんで、応急手当の程度は、やっておまわりでございます。

卒業内々ように今度調べようとしたところが十四校でございます。一たけ、相当数はほんどの校舎が危険校舎に幾分か指定されておまわりでございます。従いまして、これを逐次私

ども三十一年から、中尾介になつたんですが、当時は、雨漏り校舎対策、これに値わけておった。それについて、子供が増えるという事で、それから学割改革、中学校の技術家庭科これも金額を相当食ひまゝで、老朽校舎は、一応に急修理でやこめて大へん申しかけございせんが、それ以外に手があなかつたというのが実情でございます。

今後におきましては、これを抜本的に解決していきたい。こういう気持ちでございます。

先ほど鳩田議員から四国視察の話もございまして、
ですが、渠当局におきましても、校舎を今後五カ年計
画を立てられたと聞いておりますが、全部鉄筋に改
築していくという方針を聞いておりますが、最近、
所接町村におきましても、鉄筋コンクリート工事をし
ておるようでございます。

教育はもっとも重要な一つ、部内でございます。

この部内におきまして、請願書が来るから、これを工事
云々、或いは議題にするということ自体がおかしい。

ただいま西村議員がおっしゃった通り、市当局におかれま
しては、芳南中ばかりでなく、第一、第二中、等全部の
校舎の老朽化は間もなく来ると思っています。それに対す
る一つの施策を持っていないということは、残念なことだと
思います。

今回を契機といたしまして、市当局に

おかしきものでは、どうか恒久的な中学校対策を立てられまして、小学校もそうでありますが、今後老朽校舎の請願なるが故に議題にするということではなく、十分検討されまして、確固たる百年の計を立てていくべきたいと念願する者であります。

やがて、ほかり中学からも請願書が出てくると思ひますが、一々請願書によってやるそのものがおかしきと思ひます。非常に計画性のないものだと考えますので、この際、請願書を処理するに当りまして、市の方針を立てられるようにお願いするものであります。

今後の方針につきましても、教育委員会並びに市当局の片意見が聞きたいのであります。

(「同感という声あり」)

・教育長(工藤和平君) 危険校舎、老朽校舎に対する恒

又対策はどうかという中質問だと意思しますが先ほどから申し上げるにように一挙に解決できませんので、年次計画によってこれを逐次鉄筋化していくことによつて恒久的対策を講じていきたいと思つております。

・議長（黒川佐太郎君）本請願書に対する質問を打ち切り採択することに市議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

・議長（黒川佐太郎君）市議ありと認めます。よつて本案は採択さしよつた。

おはかりいたします。

採択さしよつた本案を教育委員会、市長に送付するに市議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

・議長（黒川佐太郎君）市議ありと認めます。よつてさ

よう決定いたしました。

日程第二、館山市立第四中学校体育館新築に對する請願書を上程いたします。

(書記朗読)

・議長(黒川佐太郎君)紹介議員の説明を願います。

(三番議員小柴孝君登壇)

・三番(小柴孝君)第四中学校の体育館問題につきまして一言片説明並びにお願い申し上げます。

本件は一昨年の十一月めと思いますが、一応請願書といしまして、提出いたしました。當時三度議員から紹介され採択されてゐる件でございます。一かーながら、先ほどからいろいろ問題がおりますように請願はされ採択されても、なおかつ、手を打っていないというのが、現在ゝ姿でございます。従いまして、この問題は再

度陳情という形を取ったわけでございます。

まだ、四中の現在の講堂を再覧になつておられない方も中には、あつてではないか。かように考えますので、陳情書の内容はよく書いてあります。特に重点的に三申し上げてみたいと思います。

講堂にするか体育館にするかということが、私が会長の時にもそういう問題があらつておりますが、中学の將來の教育の発展を期するためにはどうしても体育館の形式を取つて講堂兼用ということに持つて行かなければ、これから先の中学の教育は困るという方が第一要諦でございます。体育館と是非建てていただきたいということに踏み切つたわけでございます。

従いまして、先ほどう房南中学の場合は校舎でございます。一、校舎優先という立場からいけば一応これは、文句

ないわけでございますが、四中は皆さんうおかげで校舎の方は、木造建築で曲りなりにもこの陳情書にありま
すような建物は立ててあるわけで、講堂が現在地区の
PT・A会員はもちろん生徒あるいは、地区の皆さんと
いたしまして、非常に問題になっておるのでどうせ建て
るなら、思い切った体育館を建てろという声があるわけ
あります。 こういう皆さんの本當の教育に対する熱
意が最近特に上って参りまして、PT・A等々会合に
おいては、この問題が取り上げられて審議されておるとい
う状況でございます。 かくいう立場から考えましても、
是非体育館という問題を解決していただきたい。
かくいう考えのわけでございます。 なお、陳情書の中
に書いてありますように、四中の子供の体位が非常に低
いというふうな問題、これを極論すれば、結局、校庭が

ゆかつて運動がでない。そうときに体育館を使うわけ
でございすが、体育館そのものが非常に狭いのみなら
ず床板そのものは、修理に修理を重ねておりますが関係
上、講堂を使う場合には、危険防止ということも、最初
に唱えてやら、使わなければならぬというものが現在の状
況でございします。

中栗内の通り、熊野中学校をそのまま四中という
統合中学になる関係上、生徒の数におきまして、講
堂が非常に狭い。儀式、卒業式というような場合に
金校生徒も講堂に入らぬ。またカー入らぬ。

あとう生徒は待機というが現在の姿でございします。
こういう面からも現在、統合中学だったからそれなりに
教育がでるような言葉を依ってやるということが、一番
市立の学校としては、大事な問題ではないか。中学

校は小学校と違ひヨ一て、運動も激しいわけ
 でございますので、そういう面から考えましても、体育館
 の建設は、本当に四中の場合、急務のことだと思ひます。
 人どくと申し上げる必要はございませんが、四中といなし
 ヲ一て、希望の二、三を申し上げますと、鉄骨の全部
 コンクリというわけにはいきませんが、約二百坪位の体育
 館を依つて、そうして子供たちの教育の場として十分活
 用していけば一番いいというのが今う目標でございます
 す。

現地を見ていただければ一番いいわけでございますが、
 そういふ点から考えま一て、房南中学と併行して、
 四中の体育館の建設という問題につきま一ては、
 是非ともこの際採択していたださま一て、そうして
 子供たちうために教育の見地を期一ていただきたい。

かように考えなければなりません。なお、皆さんの方からや
質問がございませう。知らぬ範囲におきましてお
答えいたしませんと思います。

・三番（三沢節君）ただ今、紹介議員から、るる説明
があり、請願書にも書いてございますが、そのうちで、た
だいま、三十六年度に請願書は採択になっておるけれど
もやっていただけないという言葉が出ておりますので、立場
上から理由を申し上げます。と申しますのは、館野小学
校が三十四年度に採択を受けて本年度工事に着手
してゐる。この寄付が一戸平均四千円でございます。

そうしますと、中学校の講堂と小学校が同時にやると
いうことになりますと、館野の方の地区民の負担がい
まいないのであります。ということでは、私が中に入りまして、中学
校の方は、一年延ばしてもらいたいということから、採択に

なり、なお、実施に移さないといいことが現在までの状況でございます。もとより中学校としては、第一次から、第五次の計画にそつて、最後に講堂でございますが、その講堂は、体育館になると校庭もつぶしますので、裏方に四十五畝を買つて市に寄付して講堂を建てる場合の余地をしておるのでございます。

こういう受け入れ態勢が早くできておりますので、さらに改めて議員が更新さした関係、もう一回皆さん方には、中理解ある中、同情を願つてこれを採決に移してもらいたいという事が、今回の陳情書の理由でございます。まず、細かいことは、小柴議員から、お話をございまして、それで、補足的にお願いいたしまして、ぜひとも、三十二年年度の採決をもう一ぺんここで実施に移していただくことを、地元議員としてお願いする次第でございます。

一七番(飯田義男君) 房南中学の問題について
も、四中の体育館について、ましても、お説の通りでござ
います。その他、危険校舎等々相当膨大な予算
が必要ならば、いろいろ解決はちつと困難ではなろうか
と思つてございまして、先ほど市長さん、銀行からで
も借りてやつてやりたい。こうおおせられまして、この点
助役さんにも願ひいたしたいのであります。が、教育債
券、いろいろなものを発行して、これを長期返済の形で市が
市債を起すことができないか、何らかの方法で膨大
な予算がいります。その方途を講ずる道はない
か、この点助役さんにも願ひいたしたいのであります。
教育長さんに来年度から新たに小中学校の校舎の
校舎というものは、各教室の企画といひますか、そういう
ものばかりでいく面があるや、承つておりますが、そう

いうことが将来あり得るかどうか、その点をお伺いして
 でき得れば鉄筋で全額起債のような方式が一番
 いいんですが、何か困るということでもう少し研究
 をしてこれを解決する道はないか、そういう努力を
 していただきたい。こう考えますので、その点についてお
 伺いしたいと思ひます。

・助役(小島武男君) 第一点でございしますが、市が単独に
 起債を起こしてやる方法ということでもございますが、この
 点につきましては、過去におきまして、熊山高校がやった
 ことがございますが、市承知の通り起債施策口をけり
 国やワク内において操作するということになってきてお
 りまして、あのときも市承知のようになし市債と申して
 繰り上げ償還を命じられた苦しい体験を持ってある
 わけでございします。特別に国からワクワ範囲内に

おいて起債を認めるということでございます。市が単
独に起債を起すということは困難ではないかというふ
うに考えております。

――わー。今片承知の通り教育ではございませんが、ま
その他、仕事におきましては、別途な方法でいわゆる会
社的なものを作ってやるような方法もございますので、こ
ういう点につきましては、もう一度研究いたらないと思ひ
ますが、私、今持っておる知識におきましては、単独起債
は、不可能ではないか、私自身現在には考えておりますが、そ
う点もうサー研究をしておきたいと思ひます。

。教育長（工藤和平君）只今の教室の企画ということござい
ます。これは、私まだ聞いておりません。建築法は、坪で
なくメートル法になろうかと思ひます。

なお、鉄筋化につきましては、国が補助の單価を引上げる

こととできるだけ今後は鉄筋化するようにということは強
く要望してありますので、こゝが具体化したときに我々もそ
の豫にそつて大きく立案をして見たい。こういうふうに思て
おります。

・二五番(森生田七郎君) 一、二教育長さんにお伺いしたいのでござ
います。先ほど山田議員から申されたごとく、こゝに
陳情請願が出て市会で採択して、一かも、そつちう実現
されたものは、きりめてすまい。こゝは、市の財政からい
めるところであります。そうなるに採択した市会もきり
めて權威が薄くなると思います。非常に權威の問題
にかかわると思つてあります。

そこでお伺いしたいことは、こゝに陳情請願、或いは陳情によ
つて、やらずに先ほど山田議員がいうようにやはり教育長と
しては、危険校舍も相当あると聞いております。そつち

もうを含めた校舎優先の立場から校舎のゆを限定して
評定といひますか、優秀というもつう順位というものを決
めておるが、もう一つは、校舎優先でありますけれども、校
舎並びに講堂、体育館も含めた総合的な教育に対
しての危険度が多い少い、そのウエイトの順位というも
のを決定しておるが、そういうことをお伺ひたい。

第二は、市長さんにお伺ひたいのですが、なるほど教育長さ
んは、ただいま聞きますと、技本的対策は鉄筋化と
いうことを非常に強調されておる上司当局もこれを賛
励されておる、まことに結構であります。

一、戦政からいつて鉄筋化ということとは困難性があ
る。そこで市長さんにお伺ひたいことは、危険校舎とわか
えておる中でございますから、まずもつて危険の解消とい
う立場から或いは必要があれば木造によつてまず危険

を解消してそれから戦後うおもむくところによって鉄筋
化に踏み切る考えが、或いは、最初から鉄筋化について
万難を排して校舎をやめるのか、この点であります。教育
機会均等の立場からいえますと、むしろいい問題であり
ます。が、この二点について教育長並びに市長さんの
答弁を願いたいのであります。

・教育長（工藤和平君）お答えいたします。危険度と申しま
すことは大きな台風でありますとか、いわゆる耐力度とい
うことでありまして、これは、県の専門技術者になります。
全市の建物が危険度、耐力度というものが、計算さ
れたのであります。その計算の結果が私の手元にござ
いますので、耐力度のひどいものから、序列を付けまして
これを具体的にどこが学校には、序列の何番目のも
のが、何棟ある。これを勘案いたしまして、いわゆる学校

の序列を私なりに考えてございます。まだ教育委員会にはおけませんけれども、総合的な企画があるかどうかという中質問でございますが、新年度、教育予算を依るに当りまして、まず、頭にきますことは、危険校舎の問題もありまして、また中学校の技術家庭科という問題は三十七年度に完成しなければならぬ問題がいまだにございません。これも是が非でもやらなければならぬ、なお、その他の建物といふことで、便所とか、或いは、理科室でありまして、いろいろな学校運営上、教育の遂行上、欠くべからざる建物、問題が山積してあるわけでございます。

さらに高等学校の問題、幼稚園の問題、これらと基本的に残つた柱を建てまして、これを現場の学校に具体的に割りまして、それに数字を盛りまして、そうして、年間の

建設費の大体四千五百万円でございまして、それを五千万円位に見積りまして、これが何年位に遂行できるかということと立案中で大体、目算がついたところでございます。いわゆる、総合的な施策に入るところでございます。

なお、このにつきましては、新市町村建設計画がありまいたので、これも完成せねばならぬ。こういう状況でございます。

・市長(本間 義彦) 老朽校舎につきましても、一時的な措置をとりまして、新しく金校舎を新築する場合にはどんな犠牲を払っても鉄筋でやる。こう考えております。

・二五番(本間 義彦)(荻生田七郎君) 市長さん、市答弁まで、とにかく、市で財政に鑑み、危険度、問題ですけれども、教育の機会均等という立場から、まずもって危険だというものを、そうして面を解消して、それから、鉄筋に踏み切るべきで

はないかという意見と万難を排して、まずもって危険校舎は残しても第一、危険校舎を鉄筋にするのか。

・市長(本間譲君)危険校舎につきましては、先ほど申し上げましたように、応急修理をして、それを間に合わしていただきまして、新しく全校舎を建てるとする場合には、算の許す範囲で鉄筋化していきなさい。

こう考えております。

・三五番(松本藤太郎君)教育面より予算というものは、年々ふえて、相当膨大なり予算は持っておりますが、学校建物に対する計画、或いは物品に対する計画等も建ててあるんですが、これがなかなか思うようにいかない。

そううちにこういったような危険校舎というような請願が出てくる。こういうことでございますが、今日まで陳情請願が出て、議会だけは、通るが実施されない。

こういふ面が非常に廣かつた。――わー。今回はこの請
 願を機として採択されたならば、熱意を持ってその機
 にさうように努力する。こういうことが約束されたと思
 います。そういう中で最後のものを見ますと、三十九
 年度に新築をしてほしい云々という請願の中にある
 のですが、非常に予算を伴う問題でありまして私
 ども議会人として来年度この体育館をやるのだと
 いうことをここで採択してしよう。こういうことが、
 責任を我々も持つて採択した以上、そういう気持ちで強け
 れば強いほど年度を銘記したもう不安を感じる。
 審議権を持つ。我々としてでは感ずるわけなんです、
 紹介議員さんにお尋ねするんですが、そういうふうな
 私は考えを持つてますが、予算面において何かよほど
 の確信でもあつてのことなのか、或いはどういふことなの

か。そういう点をお慮かせ願いたいと思います。

・三番（小柴孝君）お答えいたします。三十九年度と銘記したわけでございますが、実際は、昨年度でござるが、次年度においては、という問題がござると思ひます。文面では、そこで相当強硬に私の方は、意思が是非来年はやうてふという姿が三十九年度となつたわけで、予算の方のやりくりの問題は、一々教育長さん、或いは、市長さんにお尋ね由にて検討した上において、三十九年度という姿になつたわけではございません。ただ、三十九年度に是非やっていたきたいという意思をここに示したわけでございまして、この線がまともですと、やはり、体育館でございますので、地元の方である程度の点はやるのだということにならば、その線にそつて一部を負担をわければならぬという姿が、この文面に三十九年度、こういう姿に

なったわけでございます。三十九年度では、どう—でもで
 きないのだということに、なれば、また次の年度、いわゆる
 さつき、教育長さんがいわれたところの年次計画である
 ということだったから結構でございますが、地元といな—ま
 —では、年次計画にならばなるほど、これが五年、六年
 ということになれば、子供の方がけがを—たり、場合がで
 き—て、非常に床の修理だとか、危険性を考慮—
 て、やらなければならぬというところに子供たちが悪い
 切った運動がでさないと—いうところに問題があるわけが
 そういう面から考えま—ても、三十九年度は根拠があ
 るや—というところ、地区の皆さんに協力を求めるためにいつに
 なるか、わやらないぞ—というよりも、三十九年度と出し
 た方が地元と—しても、盛り上—てくると—いうことでござら
 ず、又面にあります。三十九年度という問題は出たので

はないかと思ひます。

予算ができたから、三十九年度というふうなわけではございません。従いまゝて、三十九年度 そのものをあまり重視いたしますと、おそらく腹をよく聞いて予算が今年あるからやるのだということになれば、請願書はいくらなるのでありまして、この際でもつて是非、やっていた方がいいという請願でございますのでその点、ゆる承願いたしたいと思います。

・三五番(松本藤太郎君)地元の国民としては当然のことだと思ひます。ただ、ここで審議する議会の場といた場合、やはり立場がかわってくる。

それから三十九年度にやることに反対してあるということではないけれども、その点一つ、片理解願いたいたと思ひます。要するに今までのような陳情、請願の扱い

でなく、今度は採択された以上、十分これを実施させる
 議会も、この実施に向けて推進させ、これを監視
 して行かなければならぬ。そういう先ほど約束があ
 ったはずでございしますので、そういう内容があればあ
 るほど、山積してある教育の面に多く予算を拂
 げることなんです。そういう点でもって、縣庁念され
 て、申し上げたようなわけでございします。私は、この点につ
 いて、これを採択してやるのだということになれば、膨大な予
 算が拘束されてくる。そういうふうなまで考えにから
 申し上げたわけでございします。そういう意味で予算は
 我々が審議するのだ。来年の四中の体育館については
 さまためたのだということ。がまだ、予算審議をしない前
 から出ていくということを、縣庁念してあるわけでございします
 でありますので、当局によって来年度やらなくても、延ば

すということにも相なる。早急にかかくなる。小柴さんのお
話では、必ずしも来年ということではないういうならば、
やはり大きな予算も必要とするものでございすので早
急という言葉にいていたに、~~お~~けは我々としても三
十九年度に実施させる気持ちでやっています。こういう考
えてございます。

・二二番（君塚喜三君）房南中学校の危険校舎の請願書
まことに切実なうたわいにあとだけに四中の新築は、せい
たくな感を受けがちなうであります。一か一なから、他
の中学校、二中にいたるまでも、西河中学校にいたし
ましても、立派な講堂兼体育館を持ってあります。
等しく館山市の中学校であらうで、教材はそうでありま
すが、教育施設につきましても大きな差があつてはならぬ
と考えるわけであります。事実言わねたような危険校

金」ということでありますならば、何をして置いてもやらなければならぬと考えます。同時に各中学校の差をできるだけ小さくするために、こういふ問題こそ、年次計画の中に金中学校のものを盛って配慮していただく方がいいのではないか。私はこのように考えます。

教育長さんのお考えをお聞かせ願いたいと思います。教育長（工藤和平君）四中の屋内体育館の建設に、かねて金市が金中学校の総合的な考えを持って、こういうやり取りがするように受け取ったのであります。先ほども申し上げましたように、幾本かの基本的な考え方の中に中学校の問題を取り上げてあります。

その他建物というのは、理科室ばかりではございませんで、屋内体育館ということに入っておるわけでございますが、西岬中学校の体育館もいろんな経費の節約

を受けまいにために中学校の子供がのびのびと運動できる体育館ではなかったように思います。

今後建てます場合に百五十坪以上、鉄骨のものにしたいというので年次計画の中に織り込んでいくわけでございます。

二一番（石井正君）市長さんにお伺いしたいと思います。

過去私がやはりこのような問題について教育環境の整備については幾花式ではいかぬ。計画を立てて年次

計画でやっていくということをお願いしたことがございますが、今回請願書が残つたことで、その感をまた強くたわけでございますが、教育長さんは、五カ年計画をただ今立案中で、ほぼ完成したというお言葉であります。が、先ほど来、いろいろ出ておりますが、請願々々というても、それが実現しないというところに問題があるわけ

で、今度また、那古小学校は、じめ、開くところになります
と、次の機会に、四・五件、請願がある。とやらについて、いわけ
る。結論が五カ年計画というところで、まゝして、それが、実
施さなければいけません。その五カ年計画を市長が、実
施しなければ、何にもならないことであり、まゝして、その点に
つきまゝして、市長さんが、五カ年計画について、どういう腹を
持っているかというところをお聞きしたい。

・市長（本間 譲君）教育委員会の方針に、こちらは協力しま
して、その実現を期したい。こういうふうな考えであります。
・二番（石井正君）それでは、要望いたしたいと思ひますが、
教育長さん、今、お聞きするように、市長さんが、教育委員会
の計画に従って、協力をしたいというふうな、おありがたい。
お言葉であります。前回、二中の校舎の祝賀式、挨拶
の中に、「来年は、教育に重点を置く」ということを、おっしゃる

いております。この五年計画は非常に權威がある
ものになると思います。そうでなければならぬと思いま
すが、只今、各学校に、いわゆる整備の關係で調査を
したことを聞いております。しかし、これはやはり客観
性がある、しかも可能性のあるものでなくては、いけないと
思いますので、十分研究資料を調査さしめて、立派
な五年計画を立てていただきたい。このように要望
して、ただいま出ました四中講堂の請願につきましては
賛成をいたしたいと思つております。

○六番(岡武夫君)四中の体育館の問題ですが、私も現
在の講堂を見て、承知しておるのでありますが、これは
講堂と称するほど、うしろものでは無い。非常に子供たち
は、かわいいのであります。これは、早急に一つかりなも
のを作ってやらなければならぬと私も常々思つてあります。

が従いまゝて、本請願書につきまゝては、金面的に賛成いたします。

問題とは取源の問題でありまして、先ほど飯田議員から学校債の問題が出まゝて、非常に示唆のあるお話だと私も同感でございます。

私も南房州の優良道路の取源であつた金の集め方を果がやつた、あつて見まゝて、ひとり学校債といわず何かあつた取源の集め方ができないのか、考えておきたいわけですが、特に学校^債になると、やりようによっては、できるのではないかというふうな考えを持つております。

そこで、助役さんにお伺いしたいのですが、館山高校の学校債の場合は、当時、国や県に内緒で市だけが、学校自体に債券を集めさせたわけでありまして、表面化していかぬということと返つたという現状だと思ひます。

最初から国や県と折衝して例へば金銭融機関なん

かに交渉して全額銀行の金繰りやワケ内において引き受けらるるというような金額であれば、渠之國も了解するのではないかというふうに考えらるるわけであります。

どうや、この問題で真剣に研究していただきたいと思つて着であります。助役さんのお考えは、いかがでありますか。

・助役(小出武男君)先ほど飯田議員に申し上げました通りまだ、私も初めてケースでございます。市自体で市債を起すということになりますと、やはり上級官庁やワケをもらわなければならぬということだと思います。そういうわけで市債が起せるかどうか、学校債などは非常にそういう面でいいと思いますが、その方法において、また研究が足りませんので、もうサ、研究して見たいと思います。これを何かほかの機関にやってもらう。市が幾分投資

まーなり、そういう方向である。機動にやってもらうということなら、可能性がありはーないかという義もする。です。すが、市自体で市債を起すということになれば、相当の制約がある。うてはないかというふうに考え、おります。うで、もうさー、勉強の余地を与えていただきたいと思ひます。

・二四番(島野茂樹郎君)教育長さんに土問いーんといひます。館山市に現在非常に危険校舎が多い。それは、年次計画において、逐次直していく。うだという中、決事だったわけです。が、年次計画今、立案中ということでございます。すけいども、実際に、いつ頃、この計画ができて、何年度から実施していく。うだ。年次計画というものの内容について、もう少し、具体的にいつから、この計画によって、実施する。うだということ、例えば、三十九年度から実施する。うだという計

画がいつできていつやら実施するのだというふうなことをもう少し具体的にばつきり答えていただきたい。

。教育長（工藤和平君）お答えいたします。幾本かの柱を立てると申し上げましたが、これが相当数でございます。基本的な考え方の中に給食室、いろんな問題があるわけです。そういうものを全部入れまして、それを学校に具体的に当りまして、さらに教育に現わしますと、まず、三十九年度が優先的に考えまして、それから、はずれたものが、逐次年度が下っていく。従いまして、今ところ大体の目安がつきました。全部我々も希望を入れますのに五年かかります。七年かかります。実績はそうでございますから、私もやはり五カ年とは申してありますが、長期計画からいって我々の理想達成に努力したい。三十九年度を基点として解消していききたい。こういうことでございます。

・二六番(鈴木孝君) 四中の請願書は採択していただくことに賛成であります。先ほども小柴さんからの説明であそこは講堂といっても、ちつと一た島小屋のようなかっこうで是非採択していただきたいと思っております。

それにつきまゝ一中ですが、一中もやはり小柴さんといわいた通り合致する点が多い。一かも二階であつて全員が収容できる。半数位一か、収容できない。雨の降る日は金部同トですが、一中は、風う日はあつた場所ですから、ほうりでできない。そういう点もありはすので、是非一中も加えていただきたいと思ひます。

先ほど教生田さん、質問で教育長え、青写真ができておるかということ、質問されたときに答弁に序列ができておる。一中もその序列に入つておることと思ひますが、その点もお伺いしたいと思ひます。

・教育長（工藤和平君）長期計画の中に全部一中は不適確
校舎の一つでございまして、考慮してございます。

・二六番（鈴木孝君）大へんがっかりだ。長期計画の中に
は入っておる。やはり早急計画の中に入っておるから、よく
考えておたうですが、あそこも生徒数は相当多い。非
常に二階で不便である。

早急計画の中に入っていたくない。既に学区民は、先は
いお話をあつたように陳情書なり、請願書なり、必ずず
近いうちにあると思います。その準備をして積み立
ても始めたようですから是非一つその点をお含み願ひ
たいと思います。

・二四番（志村信作君）先ほど助役さんが学校問題について
市債は考えて見るとおっしゃったからいいんですが、たま
たま前に鎌ヶ高校の問題うときには市債ではなくて、

あいは期成同盟会長の名で起債をして、此期限までこないでも返していただくことがあるんですが、市が直接でなくて、期成同盟会が何か作りまして、会長名で発行ができて得ると思ひますが、その点も伺ひたいと思ひます。

・助役(小島武男君)非常にそう点デリケートな面がございまして、館山高校の場合に確かに特殊な団体がいまして、借り入れは市だと思ひますが、市が債務補償をしてあるということですね。その問題につきましても、もう少し勉強して見たいと思ひますから、市以外の団体が後援会だの組織してやるということはできないと思ひます。

・一三番(菊井敏博君)私は要望でありますが、丸山町でも館南にも、館山市の十ヵ年一予算の町において

すら鉄筋コンクリートの立派な学校がでる。

熱意を持ってやれば必ずできる。請願書を採択してこゝをやるということになりますと、毎朝新聞にでて同ドことを報じ返す。そのためにも、専断の教育委員会が一々議会をりずらわすけれども、P.T.A. 学校と結ぶ合つて我々は五カ年計画、七年計画と作るのだという信念のもとに指導をしていけばもともと円滑にいく。このよう口教育問題をこのように取り上げてもできる。こういう問題を一々議会に取り上げることが恥だ。その点を教育委員会が責任ある態度によってこゝを学校、P.T.A. に私は我々が前に出す前に納得さうしてもらいたいと思うのであります。

。三二番(三沢菊君)質疑を打ち切り、ヨ一で採決を願いたいと思います。

・二三番(中村省吾君)先ほど松本議長から質問があつて
要望が出されておるわけで「三十九年度」という字句を
やはり房南中学校と同様様に「早急」という言葉
に書きかえていただきたいということが、意見として出さ
れておりますが、その問題をどう採決に当たって処理さ
れたいか、

・議長(黒川佐太郎君)それは採決するまいないかの問題だ
ろうと思います。

「三十九年度」の含みがある答弁ですから、その点片
了承願したいと思います。

本請願書は討論省略採決するにや異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

・議長(黒川佐太郎君)や異議なしと認めます。よって本案は

採択を以てした。なお本請願書は市長並びに教育委員会に送付することにより異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(黒川佐太郎君)片異議なしと認めます。よつてさう手続さいます。

暫時休憩いたします。

午前十一時五十四分

休憩

午後一時

八分

再開

議長(黒川佐太郎君)午後より出席議員数、三十四名。

休憩前に引き続き会議を開きます。

日程第三、報告第十号、報告第十一号を一括上程いたします。

報告第十号、非常勤の特別取の取員に係る報酬及び費用弁償の特例に関する条例の制定に関する専決処分報告。

報告第十一号、昭和三十一年度徳山市歳入歳出予算の追

加に関する専決処分報告

・選挙書記長(大嶋重義君)報告第十号、並びに第十一号につきまゝ一括説明申し上げます。

市承知のことと存しますが、今度の衆議院議員の選挙につきまゝては、特に選挙だけに関りまゝて、衆議院議員選挙の選挙に関する臨時特例法が公布されまゝて、この規定に基づいて執行することに相なったのでございます。

この特例法中に特に市町の条例に関連するものは、投票時間二時間延長に伴いまゝて、投票、開票管理費

投票・南票の立会人の報酬額の引き上げと一つ
と、予算面におきまゝでは、こゝらの人件費の増給、そ
れから公営ポスター掲示板の増設、個人演説会の公費
立札の増設に伴う経費の増額がおもな事項でござい
ます。

報告第十一号の特創に関する条例でございしますが、ただい
ま申し上げまゝに通り特創法に基きまゝで、本市の非
常勤の特別取組職員に係る報酬及び費用平償に
関する条例を特創法の基準通りに制定いたした
でございします。即ち投票・南票管理者の日額報酬

につきまゝでは、現行、五百円でございしますが、これを千二
百円に投票・南票立会人の日額、これが現行、四百円を
千円にそれぞれ引き上げ支給する内容のものでございします。
それから次に報告第十一号の追加予算でございしますが、

中案内のように国会議員の選挙執行の経費につき
まゝでは、国会議員の選挙等の執行経費の基準に
附する法律という法律がございまして、これに基いて経
費をほじき出すことになつておるので、ございます。

本予算もこの基準法と一部の特例法とに準拠いた
し、こゝで、ここに追加予算を計上したわけでございます。
この内容を申し上げますと、十一款選挙費六項、衆議院
議員選挙及び最高裁判所裁判官、国民審査費
といひ、こゝで、百七万三百円余をお願いたうでござ
います。この内容といひ、こゝでは報酬でございます。
先ほど、値上げの付記にございます通りで、こゝが、
七万九千六百円。

それから、旅費でございます。五万五千円、おもひもつを
申し上げますと、委員の費用并償五千円、普偏旅費五

万円、これはおもに行政区の担当取員をもちまゝで、それぞれ受け持っておまゝでございしますが、このうち取員が約百五十人おります。このうち取員がそれぞれ入場券の配布、あるいは補充選挙人名簿の申請あつせん。或いは広報、こういったものも市内出張として出ますので、このうち旅費が、大部分で、四万二千円でございます。

それから、取員手当て三十九万五千二百円でございしますが、これは、全部取員の超過勤務手当でございます。これはつまりでは、大体投票事務が十五万円、开票事務十八万二千円、この選挙事務のための準備事務が六万三千円、こういう内容でございます。

あと、おもなものは、消耗品費で三十三万でございますが、これは、先ほど申し上げました通り、この選挙に限り、ポスターの装設、置場が一投票区三カ所、一万五

五カ所というふうになりまゐる関係上、このためにボツ
 一の設置費が大部分でございす。こゝが、約十
 五カ所分二十九万二千円余でございす。その他に
 五札がふえまゐるので立看板の器具費というものが
 三十三万の内容でございす。

なお、實際の交付される額は多少、こゝよりもふえるかと
 思ひます。

十月三十一日告示、十一月十一日選挙というあつたに
 い日程でございまして、議会招集のいとまがございせん
 であつて、地方自治法百七十九条第一項の規定によ
 り専決処分をお願ひいたした次第でございす。

・二三番(中村省吾君)つらぬない質問。ようでございす。が、
 特例法の中で日額ということが、出ておりますが、日額
 の性格、解釈はどうか、なお考えになつておらるゝか、や

説明願いたいと思います。

それから関連してくることですが、増額をいたすという増額の考え方、五百円を千二百円というものがどういうわけで増額されてきておるや、ということが私の考えでは関連性があるようにも思えますが、その点特別のことがあろうか。

。後援書記長（大嶋重義君）第一点でございしますが、日額のことでございしますが、これにつきまゝでは、別に法の上から解釈をいたすのはございせんが、要するに一日という解釈でございします。これが今までは、午前七時から午後六時までということであつたが、延びた点から、一応増額というように上の方から増額趣旨が参っております。それから増額の件でございしますが、特別の音は味はございせん。

・二三番(中村者吾君)そうしますと、解釈で予算を見ましても、用票立会人の方が一日ということになりますと、用票は二日間にかゝる。二十一日から二十二日になった。

そういう意味の日額ということになると、二日分を支出するにやばい。こういうことになりましたが、十二時を過ぎると二十一日になる。その点をどうも考えなくてはならない。選挙書記長(大嶋重義君)用票立会人、場合でございす。これは、用票が翌日にまたがっても、その翌日の用票に限り一回分と申します。二日にまたがってもその場合は一日分として計算でございす。

・二三番(中村者吾君)一回分として計算。そのことが日額という私が聞いた性格の中。正し、答えになりますか。どうかということ。日額というふうに条例で示してあります。日額というものが、性格を考慮したいというふうな思った。

南票の場合には、当然二日分だ。二日分支給しなければならぬではないか。一回分ということならば、日額という言葉を使わない。日額ときめた以上、二日分支給しなければならぬ。従って一回分だと思ふということであつて、そういう点が特別法の中で銘記されてあるかないか。知りたかつた。ないとすれば、日額をということになりますとおめーくなる。こゝを生かすとするば南票立会人の場合は、二日分支給しなければならぬ。

・受審書記長(大嶋重義君)基準法の第十四条で規定されておるのでございますが、「一日につき千二百円」それなら「千円」こういうふうな読みかへ規定でございます。

私の方では今までそういう二日にまたがっておる場合も一日分ということでは給して参つておりまして、横行によりまして、一日分として支給いたしておる次第でございます。

・二三番(中村青吾君)本会蔵です。からうそむやにできない。日額というものを定めておる。に現実に二日間働いておる。積行として一日とみなすということはおかしい。私がこういうことを発言しなけければよかったかもしれない。一応発言してあなたの方から日額の仕格を聞いて一日分だということとになってきて、実額は二日になったという。二日どうしても払わなければならぬ。だからそこでもって五百円が千二百円になった。そのことは、多分に金額の中にそういうものを加味しておる。だということなら、私も納得したかもしれない。せん。そこで、増額したことが、日額と実連性があまるではないかということをお申し上げたつもりです。

夜間働くなり翌日にもおける問題であるから、この報酬に限って、このように増額するのだということが、特例法の中であったのではないかと、思ったから聞いた。そういうもの

がなければ、このように予算を組まなければならぬと思う。
議長(黒川佐太郎君)休憩いたします。

午後二時二十七分

休憩

午後二時三十分

再開

議長(黒川佐太郎君)休憩前に引続き会議を開きます。

一、齋(辻田実君)歳末の節でもって四節の普通旅費五万円という点と、こうで投票用紙の依頼した人ということで説明してより、たが投票用紙の依頼につきまゝでは市の職員でなくても、外部の方たちに依頼してもできるということになっておりまして、千葉県下の一部でもそういうふうになっておりまして、そういう点について、普通旅費は、全部市の職員や行政に担当の人が全部配ったのか。

それだけについて支給して頂く。それ以外の人もその中に含まれておきますが。

・選挙書記長(大嶋重義君)只今市内在職の五万円でございますが、投票用紙というお帖でございますが、入場券でございます。二枚配布でございますが、これは全部市行政に担当取員に委嘱して、それだけ有権者の家庭に配布して頂くわけでございます。それで一番大事なことは、選挙のときに、選挙権のある人は、名簿より漏れて、そのため投票ができないということにある。これは一番いけないことでございますので、この点に主力を注ぎまして、そのためには、補充選挙人名簿の登録期間中に早く入場券を配ることによって有権者が家庭で名簿漏れを発見したり、或いは行政区の人達にサービス的になるのですけれども、回つていったときに

お願いして、こばいを妨ぐということから、行政区の職員を
して、入場券の配付をしてもらうので、ほかの団体を利用して
もよろしいのでございますが、この関係につきましては、市
の職員がそれぞれ受け持つておりますと、非常に受け持
ち地域もよくわかつておりますので、こういう名簿漏れを
防ぐということからも、この方法でやっていきたいと思つて
おります。

二番(辻田実君)内部の人で配らなくてある場合にはいいわ
けですが、外部の人たちがやっている場合、いろいろ問題が
ありますから、そういう事故のないように誤解のないように
これから内部の方々にやっていた方がいいと思います。

議長(里江佐太郎君)こゝにて質疑を打ち切り、兩案を原案
通り可決することに決まらんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

・議長(眞山佐太郎君)中興議かれと認めます。よつて決まら

日程第四報告第十二号

(書記朗読)

報告第十二号

館山市厚生年金保険被保険者休養

施設設置条例の一部を改正する条例の

制定に関する専決処分報告

・観光課長(小沢正治君)報告第十二号でございますが、長た

い条例でございますが、鳩山荘の使用料の改正でございます

す。当市で経営する鳩山荘は、厚生省で指導管理する

国民宿舎でございます。国民宿舎の設置基準或いは

使用料等につきましては、厚生省の事務次官通達という

形で通達が出まゝで、これに基きまして、全国の国民

宿舎管理者の会にわづらひまして、その結果、それぞれ

料金の改正を厚生省の指導方針通りに行なうか、或い

は、ある程度改定を加えて行なうか、ということについて決定を
見よわけでございます。

本年事務次官通達に基きまして、厚生省の国立公園部
で、東西二つブロックに分けまして全国の国民宿舎管理者
会議をもちまして、最終決定を見たが、十月の三十日で
ございます。それで施行を十一月一日ということで打定さ
りまして、その通り実施しようという決議がなされたために十
月一日に施行するためには、このような条創改定の手続
が必要でございます。従いまして、議会を招集する暇も
ございませんので、自衛法百七十九条の適用をいたしまして
専断処分により条創を公布して条創を旅行した次
でございす。

その内容でございすが、従前宿泊料も三百円、一本立て
でございまして、ただ天々未満については、半額とするといふこと

それから朝食、昼食、それぞつ百円、夕食二百円というふうな規定をしております。たつを、今般、ここにございますように一般中学生徒、児童、大々未満というふうに分けまして、一般の中には、高校生以上を含めるということとでございまして、段階別、それぞつ料金の改定をいたすわけでございます。

朝食にいたしまして、昼食或いは、弁当にいたしまして、それぞつ段階を設けまして、改正いたすということ、夕食につきましても、そう通りでございます。

それから、従前、奨励料につきましては、奨励徴収の形で徴収しておつたのでございますが、この際、はつきりと条則規定で厚生省の指示に基いた料金を五十円と三十円に分けてはつきりさせようという次でございます。

次に、帰料につきましては、大体厚生省の指導方針という決定を見ましますので、こゝ通り百円ということと、特に

特別室につきましては、若干、ほかの室と差を付けて、やはり高
めに一応、各室のバランスを考慮して定めた次第でございます
十一月一日から、全国一斉に実施してある次第でございます
。議長（黒川佐太郎君）本案は質疑を打ち切り、討論省略
原案通り可決することに、異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（黒川佐太郎君）中異議なしと認めます。よって、本案は
原案通り承認することに。

日程第五、議案第百八号、議案第百九号一括上程いた
します。

（書記朗読）

議案第百八号 館山高等学校工業課程の備品購入契
約の締結について、

議案第百九号 館山高等学校工業課程の備品購入

契約の締結について

・庶務課長(干場伊右エ力君) 議案第百八号、百九号について
一括で説明申し上げます。

館と高等学校の工業課程の設備費といたいまゝで、当初
予算に七百二十万円を計上いたいまゝだが、まず、その一次分
といたいまゝで、電気科七十九万七千七百二十円、化学工業
科百五万七千五百円、合計百八十五万四千六百二十円
購入いたいまゝだが、今回第三次分といたいまゝで購入予
定電気科百六十二万四千十円、五十五品目、九十件、化
学工業科三百六万三千六百五十円、六十品目、三百六件、
これを次の五業者を指定いたいまゝで、競争入札を行な
いまいた。

千葉県教材株式会社、株式会社、木村電気工業所、神
電気工業株式会社、福井電気株式会社、望月紙店以

上五社でございます。

入れの結果は、電気科が百四十三万八千二百円、木村電気工業所でございます。

化学工業科の方は、二百七十一万八千円で千葉県教科株式会社が落札いたしました。

第一次、第二次分を合わせまして、電気科二百二十六万五千三百二十円、化学工業科が三百七十八万五千五百円、合計六百二十四万八千二百二十円となりまして、残余が百七万九千八百八十円あります。これは第三次分として、化学工業科の方として、現在、新築しております。あつがでさうです。と、教材を購入するものに残っております。

以上うやうや次分でございます。よろしくお尋ね願ひいたします。

・議長（里見佐太郎君）本業はこれにて質疑を打ち切り、付

論者略原案通り可決するに中異議ありません。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(里村佐太郎君)中異議なしと認めます。よって原案は、原案通り可決されました。

日程第六議案第百十号を上程いたします。

(書記朗読)

議案第百十号 館山市国民健康保険条例創の一部を改正

する条例の制定について。

・保険課長(池田亮山君)議案第百十号について中説明申し上げます。本案は、本年度当初におきまして既に国民健康保険法を改正がなされております。その後、厚生省と大蔵省との間で、ここの折衝に手前よりまして、ようやく十月にかりまじく、準則が出された。よって本案を提出するわけでございます。

まず、本案の趣旨から申し上げますと、国民健康保険料の
低所得者に対する保険料の軽減措置でございます。
その軽減する対象につきまゝで、大蔵省と厚生省との
間で、今まで長い期間折衝を重ねられたと聞いております。
ようやく上りまゝに案が軽減する対象でございます。
それを一部該当者と二部該当者二通りにかけて軽減
するということになってきたわけでございます。

まず、軽減する該当者、一号該当者というのは、総所得
金額が九万円以下の世帯に対する軽減、九万円を越え
て、世帯主を除きまゝにその世帯の被保険者の数に一人
一万五千円を乗じた額を九万円をプラスした金額以
下の世帯、これを二号、該当者世帯と申しております。
九万円以下、世帯に対する軽減は均等割でその均等
割の十分の六を計上する世帯、平等割も十分の六、これ

と才一該當世帯の軽減措置でございます。

ニ号該當世帯例えば五人世帯でございますと、世帯主をわけて九万円を見込金額、つまり十五万円でございます。十五万円以下は所得者に対する軽減が均等割で十分の四、世帯平等割で十分の四これを軽減する。というが、本来の趣旨でございます。その場合には、所得の計算は、所得税、それから累市氏税という種々の控除を引かひい現むる所得、そのまゝというのだという規定でございます。つまり、その世帯の所得そのまゝの総所得金額で先ほど申し上げました金額以下に該當する世帯に該當するのだ。それは三十八年度当初に上つて賦課期日現在でその該當世帯を把握するのだということでございます。

その後、被保険者の資格を取得した場合、或いは、

喪失した場合、その都度、その率において軽減措置を
すまい。以上が改定、要旨でございます。

次に条を追って申し上げます。二十条、第一項及び第二項
を次のように改める。二十条の規定と申しますと、第一項が
被保険者の資格の発生した場合、それから二項の場合
は、喪失した場合の賦課の仕方が規定されておまわ
けでございます。なお、そこに今度の改正を要するこ
とになりまうのは、先ほど申しました軽減措置を
それについて軽減する事項を設けることになりまうので、
二十条、一項及び二項の改正が必要。つまり、軽減措
置と資格の取得、それから喪失等に合わせて軽減を
その目割をもって軽減もしくは賦課としていく。
こういう規定でございます。

次に三十一條の二でございます。これが今度の減税措置

置う新しく設けられた一条でございます。一号の規定は
先ほど申しました該当事者の件でございます。

つまり所得金額を抑えてそれで九万円以下の場合軽減
するのだということです。一号の次のイとロがございます
が、イの方が均等割、ロの方が平等割、

次の二号でございます。これが先ほど申し上げました二号該
当事者の場合、軽減の仕方で一前号に規定する所得
金額の合計が地方税法三百十四条の二第一項第六号
に掲げる金額に一万五千円に当該年度の賦課期日
現在における被保険者、世帯主を除く、乗じて得た額
を越えない世帯に於て保険料、納付額に前号に該當
する。第一号に該當しない差で、これに該當する者が、二号の
該當事より次に掲げるイとロつまり均等割、平等割を
与へる。四軽減するのだということです。

次に二項ですが、第十六条第二項及び第三項の規定は、前項イ、ロに規定する額、決定しというものは、準用規定でござい
います。

十六條の二項及び三項というものは、当市の保険料計算の
際、端数計算と第三項の規定は、保険料率が決定
した場合に直ちに告知しなければならぬという規定で
ございます。

従つて本条でいう準用いたしよるものは、今回軽減され
ます額が決定された場合、直ちにその額を告知しなければ
ならないという準用規定でございます。なお、この条例は
公布の日から施行しよる、三十八年度分、当初からこの
軽減措置を計算し直すわけでございます。当市は、
第四期分まで納付されておりますので、第五期、大期に
おいて、この軽減措置を行なうわけでございます。

なお、この軽減措置に要します財源と申し上げますが、それは、全部国の調整交付金をもって、これをまかなうという事になっております。以上でございます。

・二四番(島野茂樹郎君)軽減措置の適用される人員といひますか、概算の位あるか。参考のためにお知らせ願ひたいと思ひます。

・保険課長(池田亮山君)お答え申し上げます。実は、目下これに対する作業を進めております段階でございます。はつきりした数字は申し上げかねるわけでございますが、大体、私たちが見込みとして申し上げますことは、一号該当に属する人が、千三百世帯見当、約全世帯一に対する十七%、二号該当に該当する世帯が千二百世帯、三が十五%程度に当たつて両方合せますと、二千五百世帯、約世帯数の三十三%程度がこれに該当するであらうと

思っております。

・議長(里ッ佐太郎君) 本案は二小にて質疑を打ち切り原案通り可決するに中異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

・議長(里ッ佐太郎君) 中異議なしと認めます。よって本案は原案通り可決されました。

日程第七議案第百十一号を上程いたします。

(書記朗読)

議案第百十一号 館山市五館山高等学校併設工業

科のうち電気科技舎増築その他工事
請負契約の締結について。

・建設課長(新井重助君) 議案第百十一号について中説明申し上げます。

館山高校の工業課程の併設でございますが、これは、今月

の二十日に指名競争入札を行ないまして、指名いたしまして業者は、計工務店、石井工務店、渡辺建設、興工務店、新井建設、高橋工務店、以上六社を呼びまして、競争入札いたしまして、とうとう計工務店が千十八万円をもって落札にわけてございます。こゝ中に校舎増築、その他とっておりますが、さすが、その他を申請明申し上げます。

本館は電気科の教室でございますが、これは、木造二階建スレイトぶき建物でございます。延百九十坪二合、八教室になります。二階が三教室でございます。以上合計いたしまして、八教室のもうでございます。その他、工事でございますが、これは、機械工作実習室が鉄骨平屋で屋根がスレイトぶきでございますが、六十二坪五合、床がモルタル、その他に変電室、ブロック建でございますが、これは、十二坪五合、

度廊下が鉄骨でございまして三坪五合五厘、鉛排水以上合計千十四万円で計工務店と契約したいと考えております。よろしく願います。

一三番(菊井敏博君)市といまして土木建築に关してどのような基本のもとにこのを見積って予算化するかとこのことに対して説明願いたい。

建設課長(新井重助君)お答えいたします。予算化の場合は概略予算のときに設計費ができておりました。で、この位の建物は坪四万とかいうふうに見積って実施に当ります。では詳細に設計を引きましてそれに準じて、予定価格というものを定めます。予定価格の十か八以内になれば有効ということで取り扱っております。一三番(菊井敏博君)予算価格を大体業者に対してどの程度のもうけを含むとか、耐久年月日はどの程度だと

いうのは、どういふふうに見えますか。

。建設課長（新井重助君）耐入年数は、木造の場合、二十年から二十五年というところでございましょうが、工事を施行する場合には、七割から九割五分以内でつくり競手入れの場合には、七割以下の場合には失格、九十五%の範囲内というふうになっておりますが、工事そのものの種類によります。マシメも十割、ハとか十割、セとか十割、九とかその都度、工種によつてきめる。本件の場合は、十割、ハを取りました。二三番（苗井敏博君）土木建築というのは、むづかしいので、手を抜けば手を抜けます。

現在、館山市にある学校におきましては、建築後数年に上りけたが、くずれるというふうなことで、現在工事をしている。そこにおきまして、市の予算の二割見当の入札価格をこ

いをやらして現実のものができるという疑問を持っており
ます。この点いかがでしょう。

・建設課長(新井重助君) 設計をきめまして、予算価格は
二割引かない。予算価格は、二%か三%、それは設計の
内容を見まして、設計の中に諸経費という欄がございます
まして、これは、保険料とか、業者の利益というふうなもの
がございます。そういう経費は、諸経費の中に見込んで
ございます。そういう予算の関係上、若い設計ができて
る場合がございます。その場合は、あまり予定価格を
抑えたいということではございまして、十%の予算で
十%の仕事をやっているに過ぎないということでは、十%のハから
予定価格に達するまでの方が、最低が落札者というこ
とでございます。

・一三番(菊井敏博君) お願いなんです。なるべく範囲を九

十五%にして業者の立場になつていただいて業者が
手を抜かないというふうなものを依るように監督して
もらいたいと思ひます。

一 番 (吉田勇治郎君) ちよつとお尋ねいたしますが、当初予
算書からいきますと、私が見方が間違つてゐるかもしれ
ませんが、二千二百六十三万電気工事二百七十万円、か
うな予算が本件に該当するように思ふのです。が、説
明からいきますと、工事が残つておられるやに解説して
すが、その点はどうか。それからというわけで工事が残そ
うなところならば、一緒にできないものか、いつやるか、教えて
いただきたい。

・ 建設課長 (新井重助君) この工事で予算通り全部
施行することになっております。

それでわかつてきたというのは、電気科の関係の工事ではない

これは、補助がつけないので、来年に回せば、補助がつくという事でございます。

電気その他は、別添に工事やろつてたいてい設計中でござ
います。昨年度つかなつた校舎にもやつております。

一 番（吉田勇治郎君）そうしますと、二百七十坪ですか、こゝが変更になつて現在、百九十坪、こゝで館山高校の工事は完了する。かゝうに解釈してよろしいですか、教育委員会にお尋ねいたします。

庶務課長（干場伊右エ内君）当初予定一五二坪数す
も八十坪、こゝは、建設課長が申レ上げさ一八坪増し、電
料の関係が、今年、せいをやて一五二坪と来年補助がもら
えないということでありまして、せいを八十坪だけ、三十九年

度に回わいて、そうして補助をもらえるようにするということとで八十坪だけ計画よりも少なくなっております。

・一番(吉田勇治郎君) 二千二百六十三万のものが半分以上くも帰ってくるということは、我々として、市が利益のために、或いは、市民福祉のために勝手であるという意味に解釈します。が、あまりにずさん(過)ぎると思っております。が、教育委員会並びに市長さんの考え方をよく聞かせたいと思います。

・建設課長(新井重助君) その前に市説明申し上げます。九月の市会ですが、そのときに化尊校舎の方の建築契約が七百三十五万工事中でございしますが、その他、今日の議案が千十八万、合計千七百五十九万ばかりでございしますが、これで、行なっておりますので、半分以上というわけではございません。その他に大災報知機がつけますので、総体として三百万

用。それだけが、残題ということになるわけでございます。

・一番(吉田勇治郎君)了解—ま—た。私もそういうようなことがあつたのではないかと思つて質問—た後にお話がございま—たが、もしそうだと—たならば、今う—うな建設課長の説明が六月市会に化学室を作つたということが、こ—れが二百二十坪、日々に工業課程は、総坪数二百七十坪と確か説明があつたので、今再確認—し—てあります。記憶に乏—しいから、か—うなことを申し—たのであります。教育委員会にもう一回、今建設課長、説明が合—つたが、合—つてなかつたか、教えていたゞきないと思ひます。

・庶務課長(千場伊右エ内君)当初の計画によりますと、化学教室が百八十五坪、それから電気科の坪数が百九十坪、それに機械実習工場が六十坪、変電室十坪、それに電気器械実驗室と整備室、こ—れが八十坪、以上う

校舎を当初の計画で実施する予定だったのでございすが、そうすると三十九年度の関係で電気料の方が少なくなつて、化学教室が七十一坪、電気料の方が四十五坪という産業振興法の基準に当てはまらなくなるので、電気料の方に八十坪を来年に回わつて、そうして補助をもらえるようにしたのでございます。

・一番(吉田専治郎君)工事の内容としては、了解しますが、仕事のあり方としまして、教育委員会の方としましても、予算の編成の基本からしても、もう少し、真剣味のあるやけり、今になって来年度の予算を組むときになつて来年度の補助金がどうこうといつて、かえるべき性質のものではない。一年早ければ一年早いだけ、それだけの無形の効果をあげていくのが教育ではなかろうかと思ひます。特に教育委員会に対して、最高度の

予算化にたいして最高度。予算の意義に従うように要望いたし、これは一応了解いたします。

議長(黒川佐太郎君) 本案をこれにて質疑を打ち切り討論省略原案通り可決するにや異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(黒川佐太郎君) 中異議なしと認めます。よて本案は原案通り可決いたしました。

日程第八議案第百十二号を上程いたします。

(書記朗読)

議案第百十二号 館山市立西岬中学校技術科室増築

その他工事請負契約の締結について

建設課長(新井重助君) 百十二号、議案について中説明申し上げます。こゝも去る二十日に新井建設、石井工務店

守山工業、渡辺工務店、渡辺建設、関工務店の六社

を呼びまゝして指石競争入札をいたしまして、その結果、
新井建設が百八十九万八千円で落札いたしました。
なお校舎の関係でございますが、技術科教室は木
造の平屋建てでございます。五十五坪でございます。

その他工事でございますが、今回建築する場所に旧家
庭科教室が二十四坪ございます。それとてきたあとに
この建物を建てるためにその他、工事が旧教室の移転
これを含めまして百八十九万八千円で渡辺建設と契約し
たい。このように考えまして提案した次第でございます。

○一番(幸田勇治郎君)ただ今の片説明を聞きますと、当初
予算においては大体五十坪で大体二百万円、先ほど菊
井議員がお尋ねになった点と同じ趣旨になるかと思ひます
が、これは、今度坪数を五坪ふやまして百八十九万八千円で
予定価格で十萬二千円も安く作らせるということになる

ると上げ下げ非常に隔りがある。こゝで、立派なものが出てきますか。それと五十坪が五十五坪に上つたことを合わせて中説明願いたいと思います。

・建設課長(新井重助君)お答えいたします。当初予算二百万円あるから二百万円むりやりに決めなくてもいいと思います。設計書を依りまして二百万円まで持つていかなくても、できれば、その範囲内でいい。一応予算の範囲内で百八十九万五千円位うところで契約したい。これが最低でございますが、それより五十坪が五十五坪ということでございますが、五十坪をふやしてもらいたいということ、教育委員会の方の話もございまして、五坪ふやしまして十分できるということで契約したいと思います。

・議長(黒川佐太郎君)本日はこゝにて質疑を打ち切り討論省略原案通り可決するに決まり異議ございせんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

・議長(黒川佐太郎君)中異議なしと認めます。よって本

案は、原案通り可決さいます。

日程第九議案第百十三号を上程いたします。

(二十六番議員鈴木孝君退席)

(書記朗読)

議案第百十三号

館山市立西小學校理科室増築その他

工事請負契約の締結について

・建設課長(新井重助君)百十三号について、説明申し上げます。

まず、西岬の西小學校の建築でございますが、これも

大千葉建設、田辺工務店、宇山工業、富士土建によつて

指名競争入札いたしましたところ、大千葉建設が最低

でございますので、これと契約して完成さうなと思ひ

ます。

なお、工事の内容でございすが、理科教室、水造で平屋建、三十坪五合、屋根はネジロンぶきでございす。

渡廊下九・五坪、その他建築する予定の裏の山が一応取りまーたが、その後崩壊いたしよーで、その処理といたしよーで、裏山の切り取りが百四十七立方メートル、コンクリートの城壁を作りまーで、崖のくずれを止めたいと思ひます。一番(吉田勇治郎君)まことに小さい問題で非常に大きい問題だと思つてゐて、時間をさいていただきたいと思ひますが、ただ今工事のやり説明がありまーたが、現在のところ取らせまーたが、さらにその上には建てられないから、それとを合さした工事であるというやり説明がありまーたが、それはそれとして、あの仕事の方法が湯玉に取らーたという仕事を、これはいかような方法であの整地をやりまーたか、まずその点をお聞かせ願ひたいと思ひます。

理科教室を建てるに当りまして、あそこを取らなくてはならぬ。この決定されたその契機とそれを取らせるにいかうな方法でやったか、それを併し説明願います。

。教育長（工藤和平君）第一点の理科室のあそこに一応定めたいきまつという事でございますが、最初、学校当局の要望もあり、コーナが、学校当局の要望としては、できるだけ校庭を広く使いたい。こういうもつともな要望でありました。コーナながら我々といふコーナでは、予算ともいふみ合ひをしなければいけませんので、コーナも過去において、二棟平屋があつたのを、二階建にして、後、ひつぱった関係で校庭は相当広がったと解釈したわけでございます。そこであう南の方の線が一致しないように我々計画はあつたわけでございます。一応、約二間位ですか、とび出るような様子になっておつたわけでございます。

ます。ところがその後学校当局からも地えからもやはり「国家百年の計」とはいわないけれども、みつともないからできるだけ前線そろえてはーい。これもむりからぬことと思ひますが、それをやるためにはうーろろの手を崩さなければならぬという問題が付随してくるわけでございます。これも私もいろいろ考えまゝたときに裏山の奥の方に私有地があるのでございまして、その買収ということになると、めんどうなので、その借にかからないだけ、土手を削ることは可能だということで、第一期の工事として、借にかからない程度で土手をくずすーかも前にあそこを二階を建てる場合に土手をくずすーたんです。同トく岩盤続きであろうということで後の線が崩下が一直線になー。学校も要望もほぼ聞き入れらるーということ。ことで現在の位置に定めてわけでございます。

なお、工事につきまゝでは、建設課の方に一切おまかせしてあります。

四

○一番(吉田勇治郎君) 工事については、建設課におまかせしてあるというつもりですが、建設課長さんには、どうやってやらねたもうか、やり答弁願いたいと思ひます。
 ・建設課長(新井重助君) に、だ、今、教育長さんから話が、あつた、その線に添ひまゝで設計を、請負契約を、一、二でございします。そう前に従来、山の様相から見て、ヨ一で中に入つても、若が出てくるという想定、うもとでやつたところが、若が出てこつた裏が土になつて、一、二、三というよう、わけです、さらに追ひ込もうという話、^{まが}校長先生から、あつて、建築の費用の中、に、包含して、一、二、三にやろうという、ことで、今回やることに、なつて、ございします。

・一番(吉田勇治郎君)そうしますと、工事は市が請け負わ
ーたということでございますか。

・建設課長(新井重助君)市で請け負わせましたか……
・一番(吉田勇治郎君)市で請け負った場合、助役さんや市
長さんにお尋ねいたします。

夫役は簡単にできますか。人夫を出すというふうなことは、やはり一つは課税でございます。そういうふうなことを市の入れには、地えからの労力、そういうものを、**雑密に計算して渡すような特殊な入れ**ということがございますか。その点お尋ねいたします。

・建設課長(新井重助君)崩すのを請け負わたりで、
運搬は地えでやってもよろしいこととで、

・一番(吉田勇治郎君)地えというものは、市が入れする場
合はどういうふうな話をつけてあったか。

。建設課長(新井重助君) 学校校長のいう通りにやった。

。一番(吉田勇治郎君) 校長の指導するもとにやったか。

。建設課長(新井重助君) 金が足りないからその方の費用は、

運搬は……

。一番(吉田勇治郎君) 教育委員会は、予算がないから
といって、ある金を出すから、その故にやりなさいといふ
入れにかけた。そういう話は聞いておりません。

私は責任ある部落の代表者のお話では、この工事は
校長が一人で市が入れたいのではない。市が指導の
もとに校長が責任において、これを契約したというよ
うな話を聞いております。また P・T・A が人夫を
出すというふうなことは、もうとう知らぬ、ということも
聞いておるのであります。市が指導する場合におい
て、うまくいったら石が出るだろうということは、技術屋

としてすべきではないと思います。

要するにこの工事については、教育委員会として考え方は、間違っておって、学校、校長が正しかったのだということになるか。

教育委員会が考えが正しくて校長の考え方が間違っておるのか、という結論になると思います。説明が足りないかも知れませんが、この問題は、さっきの説明の中でも教育委員会としては、足りなくても二箇所、あってもいい。こう裁定を下した。一か！地元からの要望でひつこめなければ未来の子供のためによくないと話していますね。一からば、この問題が合理的に請負がさいていゝならば、館山市の教育委員会が考え方が間違っておって校長が考え方が正しかったのであるか、そのや答弁を願います。

。教育長（工藤和平君）学校の建築は、学校の教育がで

るだけ理想的にいこうがたてまえであらうかと思ひます。
 従いまして校長の意見というものは、相当高く評價し
 て受け入れるべきものと。今でも考えておりますが、何と
 いたしまして。私どもは、予算でいばらけております。
 理想をかかげても理想通りいかないのが現実でござ
 います。

めような点で西小學校の場合も私どもは、できるだけ
 少ない予算でもって効果を上るような建て方をしよ
 うという基本的な考え方で計画したわけでございます。
 もちろんこれは、私どもも今申しました理想ではござ
 いません。できるだけ広く取ってやるのが親心であり
 我々もやるべきことであると思つております。ただ遺
 憾ながら予算の上でいばらけておりますので、この位
 なら学校当局もがまんしてくゆるであらうという観

点のもとに最初の計画を立てたわけでありす。

その後、市当局に予算の關係で折衝し、また結果、何とか援助してやろうという親心を示してくれ、それで、変更いになりまして、第二次のやうな計画になったわけでございます。従いまして、私どもの計画が間違っておったとは考えておりません。

・一番(吉田勇治郎君) 私はそうならば、間違っておったと解釈いたします。 なんならばお金がないといひますが、予算は、百九十万前後相殺してなお五派にきりいんできよつておたわけです。今当初予算に百九十万組んであります。 今、入札額は、百七十万残らであります。これは予算がない、予算にばらけているということはいい得ない問題ではございませんか。

こゝ点、どうお考えになりますか。 なお、またこの請負に

対しては、正当にやらねたというが、正当ではない。これは、
 どちらが互ち会ってやらねたか。その前にも尋ねた
 いことは市の入札というものは、受けねばならぬ、十万円であ
 けた者が三割引きでできるような仕事を十万円であ
 すといた場合には、市の入札の責任者はどうします
 か。三割にも近い金を頭をはねてやった場合に市の建
 設課長が責任を持って市長はどのような責任がつか
 いますか。市長だって教育委員会として放任することは
 できない。

地方公共団体は法令で定めるところに公営的な経費を
 こゝを予算に計上しなけねばならないということもあり
 ます。それから市長さんとして市としては収入及び
 支出の命令に対する監督権は市がある。こういうよ
 うなことが、三割に引いたものを頭をはねて十万円位で

そういうことをしているということが事実あったらどうすま。

市は絶対タッチしていないとかように信ずる。

その点について両方にお尋ねいたします。

建設課長(新井重助君)ただいまの十万円を七万残りで請け
負わされたわけ、そういうことは、私どもも関知しておりません。

初めて承ったのでございます。なお、ここで問題になるのは、

下請問題でございますが、建設業者は、建設業法によ
って行動をしております。

私どもとしても建設業法によって行動をしております。

それによりますと、下請は一切いけない。発注者の方で下請を
認めておまう場合には、差をつける。ただ今、問題は
このことを下請にするということとはございせんので、私ど
もは一切知りません。

なお、もう一つ軽微な工事は建設業法に除外してあり

ます。五十万以下の工事については、建設業法によらずにやってもよろしいということになっておりますので、五十万以下でもなるべく建設業法によってやっていきなさいとかように考えております。法的には、何う関係もございませ
ん。下請でさうなということについては、承認を得るよう
指導していきなさいと考えております。

・教育長（工藤和平君）予算の関係でございすば、市案内の
ように現在、教育委員会というものは、予算権を持ってお
りませんで、私も予算を三月末に盛ります場合には
できるだけ理想的な予算を盛りますけれども再三
折衝の過程において、それを減額せざるを得ないはめ
に陥るわけでございす。

そういうわけで、理想通り、予算は盛んなかったわけで
ございす。

一番(吉田勇治郎君)私にちも過去、議席を持っております関係上、一応教育長さんの考え方はわかります。建設課長さん、考え方もわかりますが、一か一この問題については、私は少し当局の立場において何か誤差があったのでは、なかなうか。かように考えております。今日の陳情書の問題、ふふいった問題は当然そう中でいろいろの人からの発言の趣趣旨もおおむね、ふんたういわれたような苦しい立場を承知の上では結論はそこにいておるんであります。だが、一教育の問題でありますので、何とかやけり一つの望みを持って皆さんが希望を訴えておるのであります。この西小学校の場合においては、これはたかば、十万円だから、ふんたがどこまでも予算がないとおつしやまから、そこに予算は十分余つておる。百九十九万の予算が百七十万でやっておる。そこに余つておるから

そういふようなことを申されたのではこの小さい仕事のい
 方を^把握することは別だ。この問題は要するに市がやる
 べきものでないならば、市が完全に指導して完全
 にやるべきだった。市がやらなくてもいいものでたら、当
 然教育委員会は委員会として適当な指導をして
 やらなければならぬという結論を出すのが、妥当で
 はないかとかように考えます。もう少く教育委員会
 も威信ある教育行政計画を立てていた^{べき}だいたい。
 かように私は考えております。また^{（威信）}よるものと
 私は信じております。

たまたま、西小学校の問題は教育委員会といういろいろ
 市説明を聞いて、それから校長というものはかわつて
 いる。あまつさえ、P・T・Aを主体にして応援させる
 うだったらP・T・Aが完全に工事内容を把握してなけ

いばならぬと思うのであります。PTAが主体になって犠牲をはらっておるというものは承知しておるであります。

ーかー。話し合いうない社会企業を不法な事業ということは当然させるべき問題ではない。

これは、どういふ話し合いう結果かゆかりはせんか、十万円で市が請け負わうとした工事ならば、最後まで指導監督すべきだったと思う。

それを途中において、工事はくずすだけが十万円だ、あとは地元から出て運搬ーなさい。運搬というものは莫大なる経費がかかります。それで現場におる人々話はあゝあゝいふふうな請負う方法だったらあゝ半額で荷がたものさあゝ人たちに七万幾ら金を払わなければならぬやだううぬということでは調べて見たら、工事内容は十万円だがやうなことを知ったのであります。そういう何も地

区民というものは、あそこを整理するのに四百五十円ずつ出す。二つだけ出せばできる。P・T・Aに対して四百五十円徴収命令が出ておるのであります。

たまに私たちが不当なようなこととてそれに応じなかった。

たまにたま市の十万円、お資がさしたそうでありすが、さらにまた三百五十何人は、半日ずつ勤務奉仕したならば、一日分は三百五十円に見た場合、どう位になりますか。十二万円よばいい。あと二万円で食ったり飲んだり、費用だ。こういう工事が何十万円になったりでありますか。こういうことをさしても政治責任がないというんですか。

私はP・T・Aが承知していいか、いいか、議会ですら、以上は責任を持たなければならぬから、間違ったら証人まという証言も取っておるのではありませんが、場合に

よつては、証人に五つということもいつてある。

こゝは校長の一存でやつたんですか。市の指導のもとに、賦役をさしたんですか。私たちは、どっちの言い分を取っていいかわからないのであります。だから校長のやつたのが正しいか、つたのか、教育委員会が正しいか、つたのか、ということをお我々は一言申説明をということなのであります。こゝ問題にも、いかになかつたら、関係校長をここに呼んでくる（き）適当な議会でもつて、話し合ひをすることをおえて希望するものであります。

議長（黒川佐太郎君）暫時休憩いたします。

午後三時五十分	休憩
午後四時十五分	再開

議長(黒川佐太郎君)休憩前に引き続き会議を開きます。
 一番(吉田勇治郎君)ただ今議場で趣旨がわかりないう
 いう声がございまして、まことにその点遺憾と考えるも
 うございます。その点ゆり了承を願いたいと思ひ
 ます。

まず、ただ今、件でございしますが、専任の仕事をす
 るに当って一番襟度を持ちなければならぬ専任の先
 生方特に校長、そういうものの行動については十分教
 育委員会においても、今後見守るようになっていただ
 きたい。と申します。これは、一応西小學校を特に私は知
 っておる。で、また、たまに証人もある関係上、申し上げ
 ますが、西小學校の小原校長は市に再三お願いに
 くるといひます。市には金がない。或いは校長の考えが
 とかりつたときは、いろいろな指導的意見をきつくいう。

こういうことはわかりやすく表現すればいかに怒らうて
もそうときだけは、だまって舌をかんでおれば済むやうと
いうことを何ら責任を感じず、いずれも教育者たる
者がかような言をいって地区民の正しい考え方を、せめて
自分にかような境にありけりども、自分の子供、孫
こうひとすに生きてゐる社会の弱点をついて地区民を
非常に困らせておるといふが、この本請負工事とはおそれ
以前の段階であります。あえてここに関連して申し
上げるものであります。かような点等を組み合わせて
考えた場合、入札前の政治に関するあつた工事の進め方
の結果論からして杜撰なまた、資金を集めたときの今
申し上げたような襟度を持つて仕事をしていく。一カも
先生という立場からして私は非常に情けなく感ずる
のであります。この整地工事も決して私たちとしては、

地区民の奉仕もあえてはむものではなからうであるが、
 やはり方法いかなる社会においても義を経るべき
 が本来だと思ふのであります。いろいろな点において
 誤ちをおわ—つつ今日まできておる校長の考え方、これ
 を十か今後考慮に入つていただきたいと思ひます。
 校長が正—くて、教育長は教育委員会、考え方
 曲つておるといふならば、その点はすみやかに教育委
 員会も教育長もいかに市長さんも非を改めていた
 だきたい。かように今後取り扱ひを希望するもので
 あります。いろいろとお話して納得ういくやうなことを
 市説明すべきが本来ですが、次の工事の本題に言
 及していただきます。

この大千葉建設ですが、百七十五千円で受けたと
 いうことは、予算を組むときは、百九十五万円だ。今度

は家をもぐすたけれども家は建てられない。約三十万円以上、出資をしている。いろいろ総合しますと、今、市の課長さんは指導した。責任を持ってやったというが、それによってもそろそろ建てられない現状になっておる。であります。それを百九十万の当初予算、今日においては百七十五万円でもってなお、四メートル切って傾斜に持つていかなければ子供は危なくて近よないという現状になっております。そう工事が含まれておると、かような説明であります。これはあまり金がないといつても、業者任せ過ぎる予算ではないかと思ひます。さもなくば、どうして百九十万円、予算を当初に組んだかということになります。ここ、どうだという。だつたら予算編成について杜撰すぎるとか、ように私は申し上げたい。であります。

今後どのような点の絶対にならないように私たち希望するものでございます。

なおさらにもとにかくですが、市が責任を持ってやったという土砂の切りくずについてあの現場を見たならば責任あることは考えられません。小さいことだから、いまいでいいということではなく、法に適用しないから、こうだというのではなく、やはり税金を使う上において十分なるその筋の指導、いわゆる責任を持った政治指導を以ていただくたい。技術指導を以ていただくたいということを希望いたします。

議長（黒川佐太郎君）本案はこゝにて質疑を打ち切り討論省略原案通り可決するにや。異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（黒川佐太郎君）や。異議なしと認めます。

よって本案は原案通り可決されました。

日程第十議案第百十四号の上程いたします。

(書記朗読)

議案第百十四号

千葉縣市町村取組員恩給組合資産

管理組合規約の一部改正について

・秘書課長(小倉登男君) 議案第百十四号について中説明
申し上げます。

本件は、館山市が加入しております千葉縣市町村恩給
組合資産管理組合の規約が市原市・千葉市の町村
合併等によりまして一部が改正されました。それにつき
まして自治法の第二百八十六条の規定によりまして管
理組合から館山市に協議を持って参りましたので、本
議会に提案いたしまして皆さんが議決をお願いいたす
わけでございます。

議長(黒川佐太郎君) 本案はこゝにて疑義を打ち切り、討論
者略原案通り可決することに決まり異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(黒川佐太郎君) 決まり異議なしと認めます。よって本案
は原案通り可決さしなう。

日程第十一 議案第百十五号を上程いたします。

(書記朗読)

議案第百十五号 釧路市公平委員会委員選任について

市長(本間義君) 公平委員会が任期満了になりまうたので、い
う検討して見たわけでございますが、大島さんと小宮
さんがやはり適当だと考えまうたので、より推薦申し上げる
次第でございます。

議長(黒川佐太郎君) おはかりいたします。本案はこゝにて
質疑を打ち切り、討論者略本案に同意することになり、異

議でございますか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

・議長(黒川佐太郎君) 片異議なしと認めます。よって本案は
原案通り同意いたしますことに決定いたします。

日程第十二議案第百十六号を上程いたします。

(書記朗読)

議案第百十六号 館山市教育委員会委員の任命に

ついて

・市長(本間讓君) 教育委員の選任につきまして申し上げ
ますが、腰越の飯田利三郎さんを市推薦申し上げ
る次第でございますが、飯田さんは、慶応義塾大学
を出まゝで、ただ今千葉相互の北条支店長を勤めて
おられますのでございます。

・議長(黒川佐太郎君) おはかりいたします。本案はこれにて

質疑を打ち切り討論者略原案通り同意することに由り
異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(黒)佐太郎君)由り異議なしと認めます。よって本
案は原案通り決定いたしました。

本臨時会が議案全部議了いたしました。
よってこれにて本臨時会を閉会いたします。

午後四時二十八分 閉会

本日の会議に付いた事件

一 議事日程に同じ

出席議員

鈴木市蔵	安藤亀吉	鈴木正一郎	鈴木孝	館石伝蔵	吉田勇治郎	秋山大三郎	田村源治郎	望日照正	辻田実	石井正	黒川佐太郎	菊井敏博	志村信作	小沢恵太郎	関武夫	飯田義男	西村真次	藤田好治	保科忠史	江田徳太郎	君塚喜三	中村省吾	島野茂樹郎	萩生田七郎	鈴木孝	鳴田繁	山田敬宇	鈴木市蔵
------	------	-------	-----	------	-------	-------	-------	------	-----	-----	-------	------	------	-------	-----	------	------	------	------	-------	------	------	-------	-------	-----	-----	------	------

安永 徳順 三沢 節

高橋 文治 山本 昇

松本 藤太郎 山口 康

昭和三十一年十一月二十六日

右会議次第を録し、ここに署石す。

館山市議会議長 黒川 修三

同 署名議員 山本 三郎

同 三澤 節

